



会報「とよ」の歴史

○会報1号

- ・昭和54年3月1日発行、会長：御手洗要(長浜小)、編集者：馬見塚イク・有定雄雄
- ・表紙には、河村信雄校長の版画による題字があり、佐伯大会(第18回)の開会式の写真と大会宣言が掲載されている。
- ・内容は、第19回の大分県小中校長研究大会別府大会の開催要項・学校経営・教職研修・各部情報・九小協や全連小の理事会報告等となっていて、6ページ編集
- ・会費を来年度より1万3千円に。
- ・別府大会は、小中合同の研究会で、テーマは「小中学校の本質をふまえ、未来を築く力を育てる学校経営の創造」で、9分科会(教育目標・教育課程・施設設備・運営評価・教師の研修・指導・同和心身・健康安全)となっている。尚、小中合同はこの時だけのようである。

○会報「とよ」の初版

- ・昭和57年度、大分県小学校長会の会報9号
- ・会長：首藤隆人(城南小)、編集者：酒井勝義(明野西小)、題字：牧泰寿(荷揚町小)
- ・表紙には、薬師寺達美校長の版画と総会の宣言や決議文が掲載されている
- ・内容の大見出しには、研究実践・郡市活動・問題点裁断・

専門部活動・就任の言葉・役員人事等がならび、8ページ編集である

○「とよ」の題字や内容の変遷

- ・題字は、昭和63年度から堤徳生校長になり、平成5年度には牧泰正校長(牧泰寿)にもどり現在に至っている
- ・表紙の写真は、版画や絵画になり、執筆者も各都市にとかわった。宣言文や決議文は会長や事務局長の提言文となった。
- ・大会宣言の中より、特徴的な言葉を抜き出してみると「国家発展の基盤は、教育の振興にある」「ゆとりあるしかも充実した教育課程」「同和教育・障害児教育・僻地教育の充実と実践」「国際化、情報化、少子化、高齢化、～」「豊かな心～」「地域社会との連携」「校長ならびに教職員の社会的地位の向上」「教職員の処遇改善」等々があり、その時代に校長会として、何に力を入れて研究したり活動したりしたかを推測することができる。